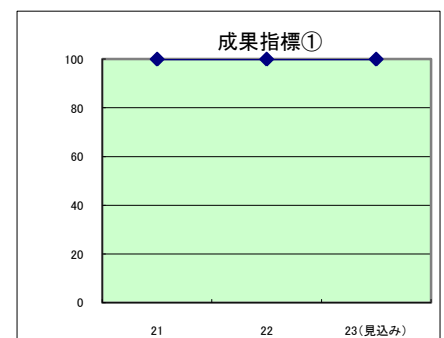
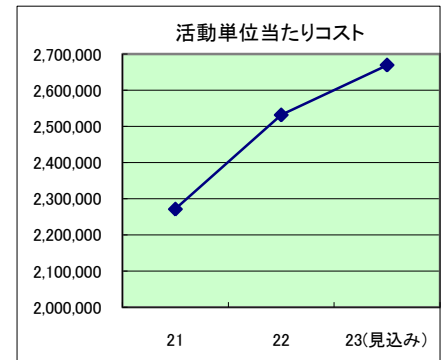


事務事業名	下水道施設管理事業		会計	5	公共下水道特別会計	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	1	安全・安心、快適で住みやすいまち	款	1	下水道費
	施策(節)	11	上下水道	項	1	下水道総務費
	施策の方向	(4)	下水道事業の推進	目	4	施設管理費
				事業	1	施設管理費(雨水分)
関連する計画等			作成部署	下水道部下水道総務課		
事業の目的	対象(誰を・何を)		連絡先	072-958-1111 内線 2390		
事業の内容	市民					
	意図(どういう状態にしたいのか)					
	公共下水道、汚水、雨水施設の機能管理を行うことで、市民の良好な生活環境を維持する。					
	下水道施設の運転管理及び点検・清掃等維持管理を行う。(雨水)ポンプ場1箇所、ゲート17箇所、貯留施設2箇所(汚水)中継ポンプ場1箇所、マンホールポンプ23箇所					
根拠法令等	下水道法					
事業開始時期	☒ 昭和 61 年開始 ☐ 平成 ☐ 明確にはわからない ☐ 市制施行(昭和34年)以前より行っている		終了年度	平成	年度	
事業開始時からの状況変化	下水道施設の増加、河川事業(浄化施設)、道路事業(ポンプ場)、耕地事業(排水機場)、公園事業(修景施設)の包括化					
市民や議会の要望	浸水対策や公共下水道施設整備の要望					
実施手法	☐ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()					
委託先	☐ 市外郭団体委託 名称()		委託内容	公共下水道施設管理業務		
	☒ 民間委託 ☐ その他					

区 分		21年度 (実績)	22年度 (実績)	23年度 (見込み)
事業費【1】	(千円)	101,576	120,489	128,375
人件費【2】	(千円)	12,000	11,160	10,440
職員数	正規職員	1.60 人	1.55 人	1.45 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	超過勤務(参考)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費(【1】+【2】)	【A】(千円)	113,576	131,649	138,815
財源内訳	国費	(千円)		
	府費	(千円)	6,356	6,356
	市債	(千円)		
	その他(手数料・使用料等)	(千円)	1,136	2,098
	一般財源	(千円)	106,084	123,195
活動指標(事業の活動実績)【B】	単位	21年度	22年度	23年度(見込み)
① 施設箇所数	箇所	50	52	52
②				
③				
活動単位当たりコスト(【A】/【B】①)		2,271,520 円	2,531,712 円	2,669,519 円
市民1人当たりコスト(【A】/人口)		955 円	1,115 円	1,177 円



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名	単位	指標設定の考え方	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	① 施設の安定稼働率	%	施設の機能が停止することなく、安定的に稼働している割合	目標 100	100	100
	(式) 安定的に稼働している施設数 ÷ 全施設数 × 100			実績 100	100	100.0%
	② (式)			目標		達成率(%)

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	市民の良好な生活環境を維持する上で下水道施設の管理は必要不可欠である。

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い	☐	☐	☒	運転、機能保全については、市民生活を守るためには必要不可欠である。
		市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☐	☐	☒	
		社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☐	☐	☒	
		国・府の事業と重複していない	☐	☐	☒	
		事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
		緊急性が認められる	☐	☒	☐	
	効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	他部署にまたがった施設を一元化することで経費を軽減し、より効率的な運営ができる。
		受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒	
		人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐	
		市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
		民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☒	☐	☐	
	有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	安定した運転管理は「安全安心快適で住みやすいまちづくり」への貢献度の高い事業である。
		上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐	
		成果を向上させる余地がない	☒	☐	☐	
		市民の視点にたってサービスが提供されている	☐	☐	☒	
	協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☐	☐	☒	
		事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☐	☐	☒	
		事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☐	☐	☒	
		事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☐	☐	☒	
	達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	施設の経年による修繕を最小限にとどめ、日々の管理技術を向上させ、施設を有効かつ効率的に運営し、より安定した運転管理を行っている。
		成果指標の実績値は目標値以上である	☒	☐	☐	
		成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐	

担当部局評価	総合評価	
	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	他部署の施設も含め一元管理することにより、経費を最小限に抑え有効に運営されている。	
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)	
行革本部評価	機能管理については、下水道整備が進む中、施設の数が増加していくと考えられ、より効率的な運営を図っていく。	
	総合評価	評価理由・意見
	☒ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	